

防災訓練（要素訓練）結果報告の概要【再処理事業部】

1. 訓練の目的

本要素訓練は、交流電源供給機能喪失時の各対応手順書に従った操作訓練を繰り返し行うことにより、訓練対象者の習熟度向上を図り、交流電源供給機能喪失時の対応能力の向上に資することを目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2014年3月6日 ～ 2015年2月23日

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 対象施設

日本原燃 再処理施設

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

詳細は、「添付資料」のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順書どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 原子力災害想定の概要

再処理施設の全交流電源供給機能が喪失することにより、崩壊熱除去機能等が喪失する状況を想定する。

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 訓練の内容

その他訓練

7. 要素訓練の結果の概要（添付資料参照）

（1）その他訓練

①電源車対応訓練

- ・地震等により交流電源供給機能が喪失したことを想定し、電源車の出動、起動および電源車から電源を供給するためのケーブルを敷設し接続する実動訓練を実施。

②水素掃気用コンプレッサ対応訓練

- ・地震等により交流電源供給機能が喪失したことを想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動およびエンジン付き空気コンプレッサから水素掃気用の空気を供給するためのホースを敷設する実動訓練を実施。

③通信設備用発電機対応訓練

- ・地震等により交流電源供給機能が喪失したことを想定し、通信設備用発電機の起動および通信設備用発電機から電源を供給するためのケーブルを敷設し接続する実動訓練を実施。

④冷却コイルへの直接注水

- ・分離建屋の高レベル廃液濃縮設備の加熱・冷却コイルに冷却水を供給するための消防ホースを建屋内に敷設する実動訓練を実施。
- ・ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系AまたはB系に冷却水を供給するための消防ホースを建屋内に敷設する実動訓練を実施。
- ・高レベル廃液ガラス固化建屋の冷却コイルに冷却水を供給するにあたっては安全冷却水内部ループ配管に消防ホースを接続する治具が必要となるが、この治具設置作業についてのモックアップ訓練および消防ホースを建屋内に敷設する実動訓練を実施。

8. 訓練評価

各要素訓練について定められた手順どおりに訓練が実施されていることを確認できた。

訓練ごとの評価結果および今後に向けた改善点は添付資料のとおり。

以 上

〈添付資料〉

要素訓練の概要

要素訓練の概要

○交流電源供給機能等喪失対応訓練(訓練実施日:2014年3月6日～2015年2月23日(適宜反復訓練を実施(当該期間内で計84回実施)、参加人数:826名)

訓練項目	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	実施結果	今後に向けた改善点
電源車対応訓練(※) 交流電源供給機能が喪失したことを想定し、電源車の出動、起動および電源車から電源を供給するためのケーブル敷設の実動訓練を実施	①統括当直長または当直長他 ②当直員 315名	手順書に従って、現場配置、電源車の出動、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に対応できること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
水素掃気用コンプレッサ対応訓練(※) 交流電源供給機能が喪失したことを想定し、エンジン付き空気コンプレッサの起動およびホース敷設の実動訓練を実施	①統括当直長または当直長他 ②当直員 188名	手順書に従って、現場配置、コンプレッサのホースの敷設、起動/停止、接続作業等が迅速に対応できること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
通信設備用発電機対応訓練(※) 交流電源供給機能が喪失したことを想定し、通信設備用発電機の起動および電源を供給するためのケーブル敷設の実動訓練を実施	①統括当直長または当直長他 ②当直員 250名	手順書に従って、現場配置、発電機の起動/停止、ケーブル敷設、接続作業等が迅速に対応出来ること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注水訓練 分離建屋の高レベル廃液濃縮設備の加熱・冷却コイルに冷却水を供給するための消防ホースを分離建屋内に敷設する実動訓練を実施	①分離課長 ②分離課員 9名	手順書に従って実動訓練を実施した結果、当該手順書で作業ができること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注水訓練 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の安全冷却水系に冷却水を供給するための消防ホースを敷設する実動訓練を実施	①脱硝課長 ②脱硝課員 9名	手順書に従って実動訓練を実施した結果、当該手順書で作業ができること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
冷却コイルへの直接注入訓練 高レベル廃液ガラス固化建屋の冷却コイルに冷却水を供給にあたって安全冷却水内部ループ配管に消防ホースを接続する治具が必要となるが、この治具設置作業についてのモックアップ訓練および消防ホースを建屋内に敷設する実動訓練を実施	①ガラス固化課長 ②ガラス固化課員 55名	手順書に従って実動訓練を実施した結果、当該手順書で作業ができること、目標時間内に円滑に対応できることを確認した。	作業安全の向上に努めるとともに、必要に応じて手順書の見直し、繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。

(※) : 複数の要素訓練を同時に実施することもある。